

家で犬を飼い始めるために考えたこと

六年 佐藤由璃明

二月に私の祖父母が急に柴犬を飼い始めました。今まで母に家で飼うようお願いしていましたが、

「絶対にダメだ、自分の事ができない人が犬を飼う資格はない。」

とはつきり言われていたので、私は内心やっただいじいじとばあばの家に行けばいつでも犬と遊べる、うれしすぎると喜んでいました。

しかし、二カ月たった頃から祖母が世話が大変で体調をくずし、祖父と散歩に出掛けると祖父の言う事を聞かなくなり、祖父の顔に噛みついたりする事が多くなりました。大変なので、姉が泊まって世話をし、家に戻ると姉が母に

「このままだと、りりあ(柴犬)が幸せになれないかもしれない。」

と言い出しました。そして母が、

「うちで飼うしかないね。」

とあっさり言ったので、私はびっくりして、でもうれしくてうれしくてたまりませんでした。

それからは、家族で話し合いです。犬の寿命と家族の寿命を考えました。柴犬の平均寿命はおよそ十四才で、私が今十一才なので二十五才くらいまで生きる予想です。父は五十才なので、六十四才になります。家族が元気で散歩に行つてあげたり、病院に行つてあげられる事ができる年齢を知る事ができました。

飼う場所についても話し合いました。私の家は、住宅街なので外で飼う場合、犬が吠え続けて近所迷惑になってしまつたり、近所には私より小さな子供がたくさんいるので、万が一、噛みついてしまつてはいけないので、家の中で飼うことにしました。私の家は両親が働いているので、りりあが家で一匹で留守番する時間が長いので、早く学校から帰つた人が散歩に行く事にしました。ふんの始末もしっかりします。その後にえさをあげますが、成長に応じて何グラムか決まっているので量つてあげます。最近食欲がなかったので、ちゅーるを連続であげたら、動物病院の体重測定で、太りすぎとじゅう医さんに注意されてしまいました。健康で長生きしてもらうためには、私達が良かれと思つている物もあげてはいけないそうです。

私の母は自分の実家で犬を飼つていて、飼う事は、死を看取る、命に責任を持つと言う事を教えられたそうです。今の私は犬が家に来てうれしい。遊んであげられるし、かわいいと思うことばかりです。でもこれから病気になつてしまつたらと考えると、自分が家族と協力してできる事と言つたら、進んで散歩をしてあげる事だと思います。

今回は急に犬を飼う事になつたけれど、これから私達家族がしっかり命に責任を持つことができたら、私が大人になつても命に責任を持つ事を教えてあげたいです。りりあがリビングでひっくり返つて寝る姿を見ると、私は幸せな気持ちになれます。